

表 4-2-1. 主傷病と副傷病の推計患者数：病院と一般診療所、1996 年、傷病大分類（前半）

傷病大分類	主傷病または副傷病ありの推計患者数 (千人)	主傷病		副傷病	
		推計患者数 (千人)	(%) #	推計患者数 (千人)	(%) #
全傷病	7,508.7	7,508.7	(100.0)	2,875.6	(38.3)
I 感染症及び寄生虫症	317.2	247.7	(78.1)	75.1	(23.7)
腸管感染症	48.1	36.8	(76.5)	11.3	(23.6)
結核	21.5	18.8	(87.2)	3.1	(14.3)
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	45.4	39.1	(86.0)	6.6	(14.5)
真菌症	65.3	45.7	(70.0)	21.3	(32.6)
その他の感染症及び寄生虫症	139.7	107.5	(76.9)	32.8	(23.5)
II 新生物	399.1	361.1	(90.5)	61.7	(15.5)
(悪性新生物) (再掲)	283.8	261.4	(92.1)	40.4	(14.2)
胃の悪性新生物	58.4	53.0	(90.8)	5.4	(9.2)
結腸及び直腸の悪性新生物	47.4	42.0	(88.6)	5.6	(11.8)
気管, 気管支及び肺の悪性新生物	28.8	26.1	(90.7)	2.7	(9.3)
その他の悪性新生物	159.0	140.3	(88.2)	26.7	(16.8)
良性新生物及びその他の新生物	119.4	99.7	(83.5)	21.3	(17.8)
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	79.4	40.9	(51.5)	39.0	(49.1)
貧血	67.4	32.4	(48.1)	35.1	(52.1)
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	12.2	8.5	(69.3)	3.9	(31.5)
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	670.8	388.9	(58.0)	312.7	(46.6)
甲状腺障害	41.5	30.4	(73.2)	11.6	(27.9)
糖尿病	359.3	237.4	(66.1)	128.4	(35.7)
その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	291.2	121.1	(41.6)	172.6	(59.3)
V 精神及び行動の障害	520.5	481.5	(92.5)	52.4	(10.1)
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	268.2	264.3	(98.5)	4.2	(1.6)
気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む)	71.0	60.3	(84.9)	10.8	(15.2)
神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	60.7	50.5	(83.3)	10.6	(17.4)
その他の精神及び行動の障害	130.7	106.4	(81.4)	26.9	(20.6)
VI 神経系の疾患	295.0	186.7	(63.3)	118.0	(40.0)
VII 眼及び付属器の疾患	384.8	356.5	(92.7)	172.3	(44.8)
白内障	164.6	130.8	(79.5)	34.0	(20.7)
その他の眼及び付属器の疾患	299.3	225.7	(75.4)	138.3	(46.2)
VIII 耳及び乳様突起の疾患	176.0	141.5	(80.4)	49.0	(27.8)
外耳疾患	32.5	23.9	(73.4)	9.7	(30.0)
中耳炎	77.3	64.5	(83.5)	13.5	(17.5)
その他の中耳及び乳様突起の疾患	28.1	18.2	(64.8)	9.9	(35.4)
内耳疾患	23.3	15.8	(67.8)	7.5	(32.2)
その他の耳疾患	26.1	19.1	(73.2)	8.3	(31.7)
IX 循環器系の疾患	1,789.2	1,449.3	(81.0)	591.6	(33.1)
高血圧性疾患	995.5	739.4	(74.3)	257.2	(25.8)
(心疾患 (高血圧性のものを除く) (再掲))	410.0	250.2	(61.0)	185.3	(45.2)
虚血性心疾患	231.0	139.1	(60.2)	95.6	(41.4)
その他の心疾患	191.0	111.1	(58.1)	89.7	(46.9)
(脳血管疾患) (再掲)	486.4	389.8	(80.1)	101.7	(20.9)
脳梗塞	352.3	278.8	(79.1)	73.8	(20.9)
その他の脳血管疾患	137.5	111.0	(80.8)	27.9	(20.3)
その他の循環器系の疾患	116.2	69.9	(60.1)	47.4	(40.8)

#主傷病または副傷病ありの推計患者数に対する割合 (%)

表 4-2-2. 主傷病と副傷病の推計患者数：病院と一般診療所、1996 年、傷病大分類（後半）

傷病大分類	主傷病または副傷病ありの推計患者数 (千人)	主傷病		副傷病	
		推計患者数 (千人)	(%) #	推計患者数 (千人)	(%) #
X 呼吸器系の疾患	1,083.4	917.9	(84.7)	276.9	(25.6)
急性上気道感染症	424.2	347.5	(81.9)	91.4	(21.6)
肺炎	38.9	29.9	(76.9)	9.1	(23.2)
急性気管支炎及び急性細気管支炎	134.3	117.9	(87.8)	16.3	(12.2)
気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	93.7	64.1	(68.4)	30.3	(32.3)
喘息	204.2	171.7	(84.1)	32.7	(16.0)
その他の呼吸器系の疾患	255.8	186.7	(73.0)	97.2	(38.0)
X I 消化器系の疾患	856.2	564.1	(65.9)	344.4	(40.2)
う蝕	9.8	8.7	(88.7)	1.1	(11.3)
歯肉炎及び歯周疾患	18.3	15.6	(85.7)	2.7	(15.0)
その他の歯及び歯の支持組織の障害	18.3	16.9	(92.2)	1.9	(10.2)
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	193.6	134.0	(69.2)	60.1	(31.1)
胃炎及び十二指腸炎	255.1	138.6	(54.3)	116.6	(45.7)
肝疾患	184.1	110.6	(60.1)	75.4	(40.9)
その他の消化器系の疾患	218.6	139.7	(63.9)	86.5	(39.6)
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	320.7	267.7	(83.5)	76.6	(23.9)
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,280.4	1,036.1	(80.9)	479.3	(37.4)
炎症性多発性関節障害	114.7	85.1	(74.2)	30.3	(26.4)
脊柱障害	707.7	540.3	(76.3)	206.4	(29.2)
骨の密度及び構造の障害	185.3	86.6	(46.7)	98.8	(53.3)
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	451.9	324.1	(71.7)	143.7	(31.8)
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	319.7	260.1	(81.4)	79.0	(24.7)
糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全	115.3	97.7	(84.7)	18.9	(16.4)
乳房及び女性生殖器の疾患	91.3	78.6	(86.1)	19.5	(21.3)
その他の腎尿路生殖器系の疾患	116.2	83.8	(72.1)	40.6	(34.9)
X V 妊娠、分娩及び産じょく	45.8	44.7	(97.5)	4.4	(9.7)
流産	3.4	3.2	(94.3)	0.2	(6.2)
妊娠高血圧症候群	2.2	1.8	(83.9)	0.4	(16.5)
単胎自然分娩	8.9	8.9	(99.8)	0.0	(0.2)
その他の妊娠、分娩及び産じょく	32.1	30.8	(95.9)	3.9	(12.0)
X VI 周産期に発生した病態	9.0	8.5	(94.5)	1.6	(17.4)
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	25.7	20.6	(79.8)	6.2	(24.1)
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	153.3	105.1	(68.6)	49.5	(32.3)
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	464.9	434.2	(93.4)	75.9	(16.3)
骨折	167.8	151.9	(90.5)	22.7	(13.5)
その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	311.8	282.2	(90.5)	53.1	(17.0)
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	206.0	195.9	(95.1)	10.1	(4.9)
正常妊娠・産じょくの管理	48.6	48.4	(99.5)	0.2	(0.5)
歯の補てつ	8.7	8.1	(92.7)	0.6	(7.3)
その他の保健サービス	148.6	139.4	(93.8)	9.2	(6.2)

#主傷病または副傷病ありの推計患者数に対する割合 (%)

患者調査の方法の検討

—総患者数の推計方法：診療状況の年次推移に関する検討—

研究協力者	三重野牧子	自治医科大学情報センター医学情報学准教授
	川戸 美由紀	藤田保健衛生大学医学部衛生学講座講師
	山田 宏哉	藤田保健衛生大学医学部衛生学講座助教
研究代表者	橋本 修二	藤田保健衛生大学医学部衛生学講座教授

研究要旨 患者調査での総患者数の推計方法について、推計方法検討の一部として診療状況の年次推移に関する検討を行った。平成26年までの医療施設静態調査の「表示診療時間の状況」について年次による変化を概観した。調査内容および表示診療時間のいずれも年次変化がみられ、病院と診療所でも状況が異なっていたものの、表示診療時間総時間としては大きな増減はみられなかった。また、患者調査の調査日が診療所で変更になった影響もみられ、診療実施機関延数について調査曜日の平均と1週間の延数の比をとったところ、火曜から木曜の平均では6倍程度であったが、火曜・水曜・金曜になってからの平均では5.5倍程度に減少した。今後は、調査日の影響を考慮すると同時に、患者数に基づいた検討も行っていく必要があると考えられる。

A. 研究目的

患者調査での総患者数の推計方法を検討するにあたり、推計方法の一部として診療状況の年次推移に関する検討を行う。とくに、曜日による診療状況の年次推移に注目する。

B. 研究方法

1. 基礎資料

基礎資料として、政府統計の総合窓口 e-Stat で公表あるいは冊子で出版されている医療施設調査の集計結果を用いた。医療施設静態調査結果として、「表示診療時間の状況」が調査項目にある、平成2年以降の集計結果を用いた（e-Stat では平成8年、11年、14年、17年、20年、23年、26年の集計結果が得られた）。医療施設調査の調査内容および調査結果の年次による違いを確認し、曜日による診療実施機関数の違いの年次推移を観察した。

曜日による診療実施機関数の違いについては、医療施設静態調査の「表示診療時間の状況」を集計した。「表示診療時間の状況」は、一般診

療所と歯科診療所では（少なくとも）平成2年から調査票の調査項目にあり、病院については平成11年以降に得られている。

平成23年の医療施設静態調査において、東日本大震災の影響により、「表示診療時間の状況」は宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県全域については調査されていない。

2. 分析方法

医療施設調査の調査内容および調査結果の年次による違いを確認し、曜日による診療実施機関数の違いの年次推移を観察した。また、先行研究「橋本修二、中村好一、小池創一ほか、厚生省患者調査に基づく総患者数の推計方法に関する検討. 厚生の指標、1994;41(6):3-12」を参考に、患者調査の調査曜日と1週間の診療実施機関延数を比較した。なお、患者調査の調査曜日は火曜から木曜の中の1日であるが、平成17年以降は診療所において火曜・水曜・金曜の中の1日となった。

(倫理面への配慮)

本研究では、連結不可能匿名化された既存の統計資料のみを用いるため、個人情報保護に係る問題は生じない。

C. 研究結果

1. 「表示診療時間の状況」調査票

図1に、「表示診療時間の状況」に関する調査票を示す。一般診療所と歯科診療所では、平成2年から20年まで曜日別に「午前」「午後」「18時以降」を区別した、ほぼ同じ調査内容であった。一方、病院では平成11年に調査が開始され、平成11年は土曜日のみが表示診療時間状況の調査であった。平成14年以降は診療所と同一の調査内容となった。平成23年以降は、「18時以降」のカテゴリが22時までの一時間毎および「22時以降」のカテゴリに細分化された。

2. 表示診療時間の状況

病院の表示診療時間について（平成11、14、17、20、23、26年）、各年の総数を分母としたそれぞれの時間帯の割合を時系列にみた図を、病院について図2-1、一般診療所について（平成2、5、8、11、14、17、20、23、26年）図2-2、歯科診療所について（平成2、5、8、11、14、17、20、23、26年）図2-3に示す。図では、全体の傾向をみるために、平成23年と26年の結果について、「18～19時」に存在した施設数を平成20年までのカテゴリ「18時以降」と同じとみなして描画した。

また、火曜から木曜（平成17年以降の診療所では火曜・水曜・金曜）の平均診療実施機関数と1週間の診療実施機関延数について集計した結果を表1に示す。平成23年と26年については図と同様に、「18～19時」に存在した施設数を平成20年までのカテゴリ「18時以降」と同じとみなした。病院では平成14年から26年まで両者の比がいずれも5.6倍で、横ばいであった。一般診療所と歯科診療所では、平成2年から14年までは6倍程度であったが、調査曜

日が変更になった平成17年以降は5.4～5.5倍となった。

D. 考察

「表示診療時間の状況」について年次推移を観察したところ、病院では平日の18時以降および土曜の午後、日曜祝日で減少傾向がみられた一方で、平日の午後は増加傾向がみられた。一般診療所では平成14年頃に水曜および木曜の午前・午後、土曜午後で減少し、その後横ばいとなっていた。歯科診療所では、平日の18時以降および土曜午後、土曜の18時以降、日曜祝日で増加傾向がみられた一方で、水曜および木曜の午前・午後で減少傾向がみられた。曜日による分布の違いや移動はあるものの、全体として表示診療時間総時間そのものに大きな増減はみられなかった。

患者調査では調査日が、病院は火・水・木曜のいずれか、診療所は平成14年までは火・水・木曜のいずれか、平成17年以降は火・水・金曜のいずれかとなっている。週間診療日数の調整係数を検討する際は、調査日の影響も考慮する必要がある。また、今後は医療機関数だけでなく患者数ベースでも検討していく必要があると考えられる。

E. 結論

平成26年までの医療施設静態調査の「表示診療時間の状況」について年次による変化を概観した。調査内容および表示診療時間のいずれも年次変化がみられ、病院と診療所でも状況が異なっていた。また、患者調査の調査日が診療所で変更になった影響もみられていた。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし。
2. 学会発表
なし。

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

図 1. 「表示診療時間の状況」の調査内容の年次による違い

病院（平成 11 年）：土曜日の表示診療時間の状況（月 4 週とした場合）

	午前中診療している	1 日診療している
毎週	1	2
月 3 回	3	4
月 2 回（隔週）	5	6
月 1 回	7	8
診療していない	9	

一般診療所と歯科診療所（平成 2～17 年）および病院（平成 14、17 年）

	月	火	水	木	金	土	日	休日
午前	1	1	1	1	1	1	1	1
午後	2	2	2	2	2	2	2	2
18 時以降	3	3	3	3	3	3	3	3
1 週間の表示診療時間合計	時間							

病院、一般診療所、歯科診療所（平成 20 年）

通常の 1 週間の診療時間（時間）				
		午前	午後	18 時以降
平日	(月・火・水・木・金)	1	2	3 (時 分 迄)
	(月・火・水・木・金)	1	2	3 (時 分 迄)
	(月・火・水・木・金)	1	2	3 (時 分 迄)
	(月・火・水・木・金)	1	2	3 (時 分 迄)
	(月・火・水・木・金)	1	2	3 (時 分 迄)
土曜日		1	2	3 (時 分 迄)
日曜日		1	2	3 (時 分 迄)
休日		1	2	3 (時 分 迄)

病院、一般診療所、歯科診療所（平成 23、26 年）

通常の 1 週間の診療時間（時間）							
曜日	午前	午後	18 時～19 時	19 時～20 時	20 時～21 時	21 時～22 時	22 時以降
月曜日	1	2	3	4	5	6	7
火曜日	1	2	3	4	5	6	7
水曜日	1	2	3	4	5	6	7
木曜日	1	2	3	4	5	6	7
金曜日	1	2	3	4	5	6	7
土曜日	1	2	3	4	5	6	7
日曜日	1	2	3	4	5	6	7
休日	1	2	3	4	5	6	7

図 2-1. 病院の「表示診療時間の状況」についての年次変化

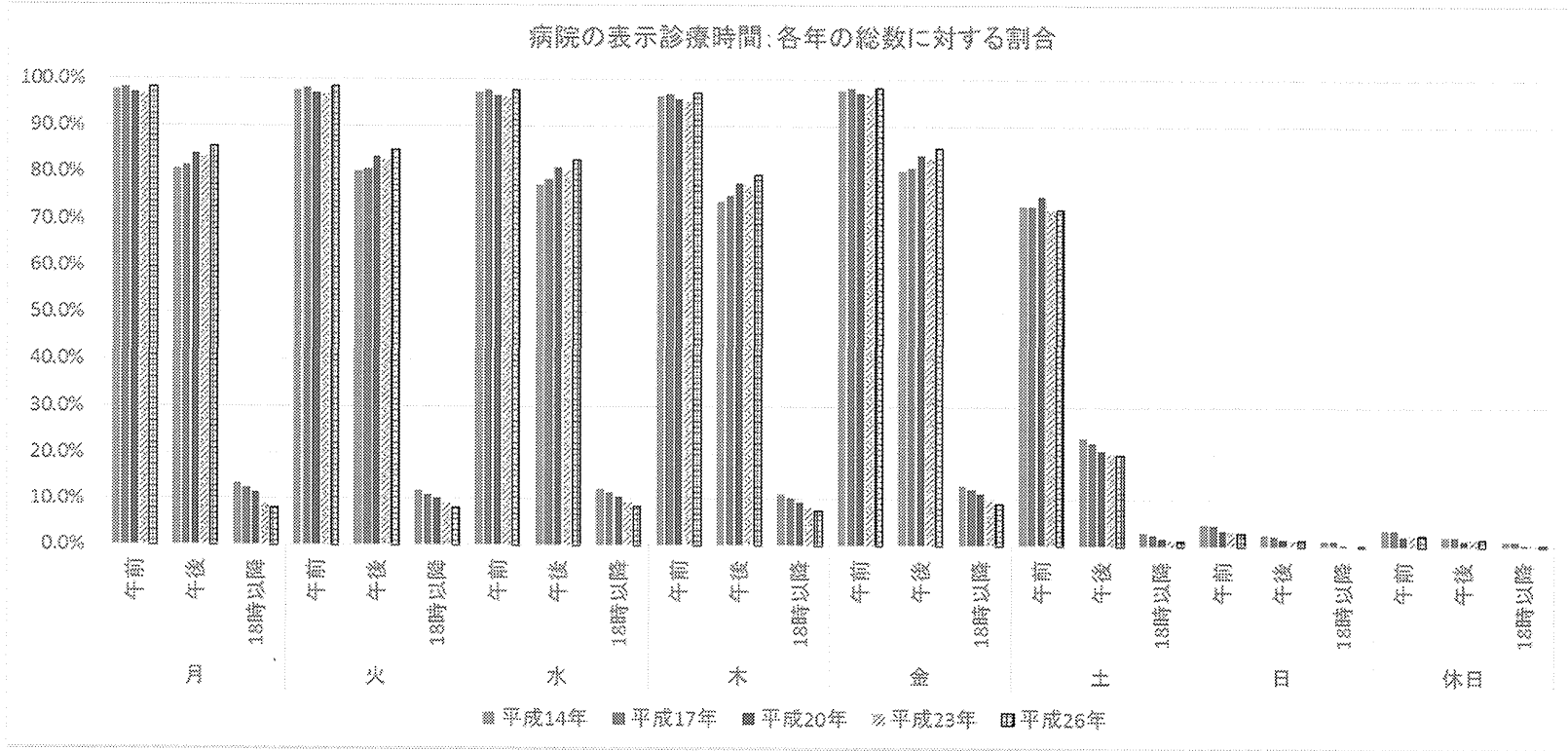


図 2-3. 歯科診療所の「表示診療時間の状況」についての年次変化

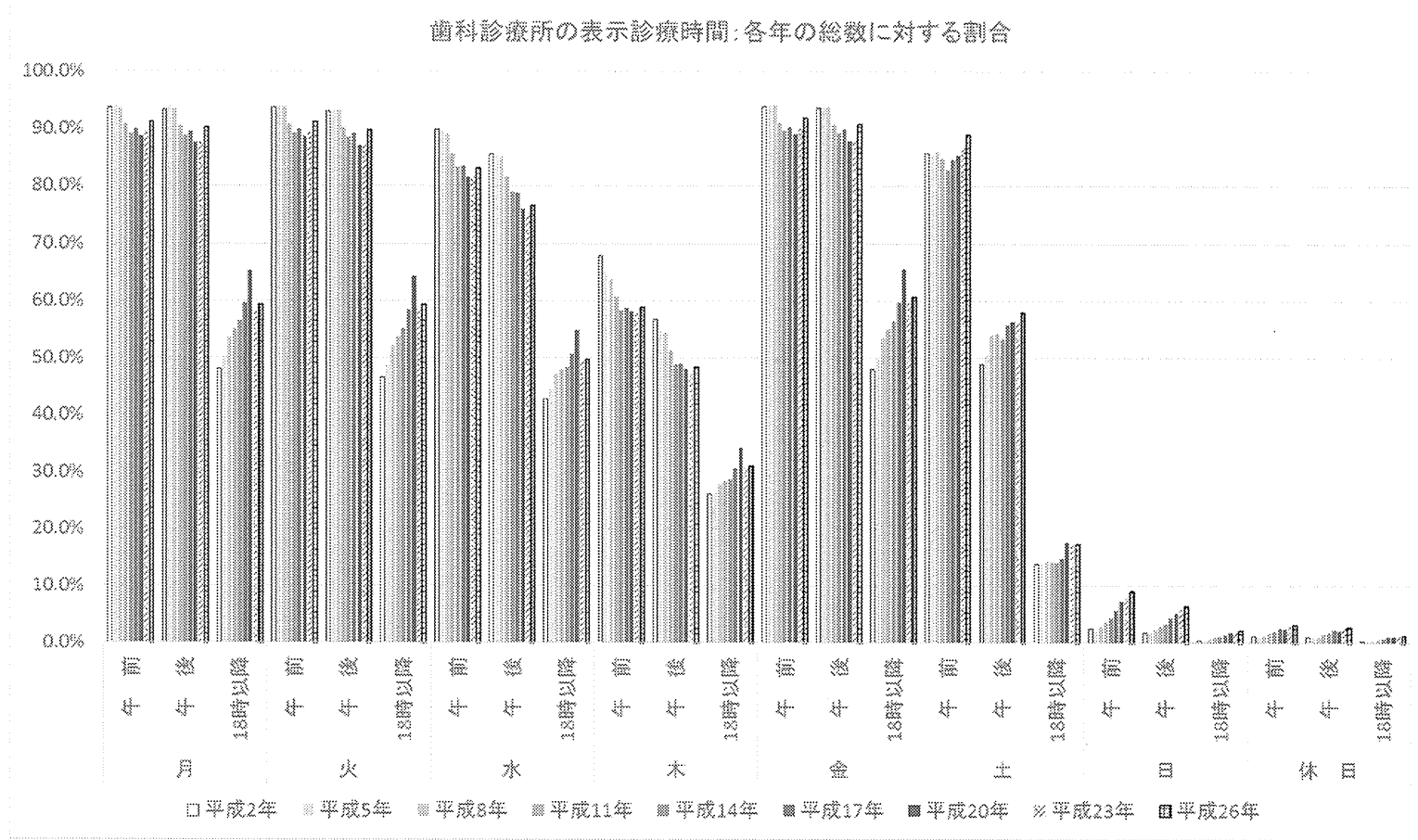


表1. 患者調査の調査曜日と1週間の診療実施機関延数				
病院	総数	午前・午後・18時以降の診療実施機関延数		
		火・水・木の平均	1週間の延数	比
平成14年	9187	17067	96212	5.6
平成17年	9026	16838	94657	5.6
平成20年	8794	16457	92203	5.6
平成23年	8605	15910	88722	5.6
平成26年	8493	15959	88757	5.6
一般診療所				
	総数	午前・午後・18時以降の診療実施機関延数		
		火・水・木(H17からは火・水・金)の平均	1週間の延数	比
平成2年	80852	136878	821009	6.0
平成5年	84128	137675	828314	6.0
平成8年	87909	145455	878742	6.0
平成11年	91500	147925	897529	6.1
平成14年	94819	140885	858180	6.1
平成17年	97442	162853	889871	5.5
平成20年	99083	168908	921917	5.5
平成23年	99547	169127	919749	5.4
平成26年	100461	174958	949309	5.4
歯科診療所				
	総数	午前・午後・18時以降の診療実施機関延数		
		火・水・木(H17からは火・水・金)の平均	1週間の延数	比
平成2年	52216	104942	641071	6.1
平成5年	55906	112124	689345	6.1
平成8年	59357	120102	742038	6.2
平成11年	62484	122993	765421	6.2
平成14年	65073	125783	786681	6.3
平成17年	66732	153654	824277	5.4
平成20年	67779	157028	847872	5.4
平成23年	68156	154559	837566	5.4
平成26年	68592	158549	860372	5.4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
	なし						

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	なし				

研究成果の刊行物・別刷

なし

